



学力充実 に向けて 確かな一歩 を!

＝平成27年度 全国学力・学習状況調査結果（6学年）報告＝



さる8月26日に、新聞報道等で全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。本県の小学校の状況は、知識の活用力を調べる「B問題」については国語・算数ともに、基礎知識を問う「A問題」については算数がそれぞれ全国40位台と低く、大きな課題が残りました。この結果を受け、県教育委員会は、危機感を持って授業改善に取り組む必要があるとし、各校に**学力の三要素の定着と探究型学習のなお一層の推進**を図るよう指導助言を行っております。

■探究型学習の推進

定義「児童生徒自らが課題を見付け、自ら考え、主体的・協働的に解決していく学習」

■学力の三要素 <学校教育法第30条>

1. 基礎的な知識・技能の習得
2. 思考力・判断力・表現力等の育成
3. 主体的に学習に取り組む態度



集中して課題に取り組む6年生

本校の結果は以下のとおりです。↓

	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答率	全国との比較								
本校	74.0	+4	68.3	+2.9	79.8	+4.6	48.9	+3.9	67.1	+6.3
全国	70.0		65.4		75.2		45.0		60.8	
県	70.6		63.6		73.4		42.1		62.0	
市	72.4		64.9		74.8		43.4		63.4	

◆学力調査 概況◆

- ・国語・算数の「A問題」「B問題」とも全ての問題において全国平均を大きく上回っています。
- ・基礎知識を問う「A問題」はもちろんですが、本県で大きな課題となっている「B問題」についても、「A問題」までとはいかないまでも、**全国平均を大きく上回っており、基礎知識とそれを活用する力の両方がバランスよくしっかりと身につけています。**

◆学習状況調査（質問紙）◆

（○よさ、△課題）

- テレビやゲームを長い時間やり過ぎている児童の割合は低い。
- 自分で計画を立てて、宿題や予習・復習をしている児童の割合が高い。
- 授業の中でわからないことがあったら、自分で調べる児童の割合が高い。
- ▲難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦しようとする子の割合が低い。
- ▲自分にはよいところがあると思っている子の割合が低い。
- ▲将来の夢や目標を持っている子の割合が低い

◆改善策・学力向上対策◆

- ・自分の考えを自分の言葉で説明したり、書きまとめたり、話し合ったりする活動を学習活動に意図的に位置づけていく。
- ・答えの当たり外れのみが価値判断の基準なのではなく、**その課題に挑戦したことに大きな意味や価値があること**を、機会ある毎に価値づけし、意識づけを行う。
- ・できていることについては、力がついており、**自信をもっていいことを機会あるごとに評価し、価値づけていく。**
- ・算数では、**発展的な学習**の時間を可能な限り確保する。
- ・研究推進委員会と学習指導部が連携し、「**学び合い**」の視点から授業改善を図る。



価値ある学び合いのある授業実践



◆本校では、スーパーバイザーの先生による授業分析を通し、協働学習としての学び合いについてアドバイスをいただきながら日々研鑽しております。

ここに国語・算数科授業における学び合いのある場面の一部を紹介します。

■「1dLのますを使って水のかさをはかろう」(2年算数)



ますの数や水のかさを互いに確認し合いながら学ぶ共同作業の価値を感じている場面

■「25を10倍した数はいくつですか？」(3年算数)



発表した児童の説明に次々と他の児童がつけ加えて発言し、多様な考えが引き出される場面

■「ちがいに目をつけて考えよう」(4年算数)



身をのり出しながら、自分の考え方を隣の児童とすり合わせるして確認しようとする場面

■「活動報告書の書き方を知ろう」(5年国語)



友達の考えを尊重し、その過程を共有し合うことで同じ気持ちになってアドバイスしようとしている場面

■「割合の表し方を考えよう」(6年算数)



児童同士で関わりながら、それぞれの考え方を紹介しあって学びをつないでいる場面

■「3つの数の足し算・引き算」(杉つく算数)



「できた！」と目を輝かせて問題を解く児童の姿。「達成感」を大事にした課題設定の場面